



## 事例紹介

石川県能登町立 おぎ 小木小学校

### 難易度別ドリルを習熟度で使い分け

### ～子どもの実態に合わせたドリルの活用～



小木小学校では、算数を少人数の習熟度別クラスに分け、子どもたちの実態や理解度に合わせて授業を行っています。今回はeライブラリを使った4年生の「直方体の展開図」の授業をご紹介します。

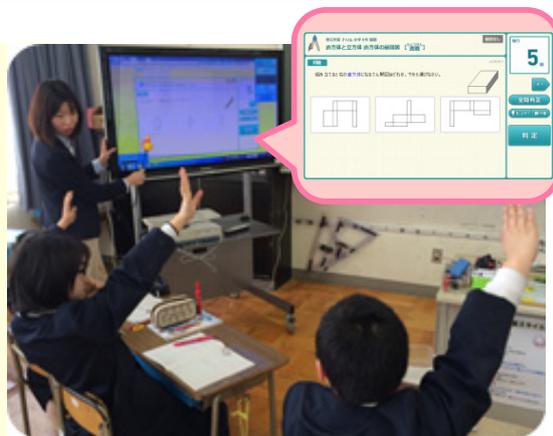
## 授業 ぐんぐんコースは挑戦問題

### ● 全員で挑戦問題にチャレンジ！

「ぐんぐんコース」（発展コース）では、授業の最後にドリルを提示し、全員で問題に挑戦しました。

基本問題を確認した後、図形が得意なぐんぐんコースは、一番難易度の高い【挑戦】問題にチャレンジします。子どもたちは難しい問題にわくわくしながら、一番に答えようと、早さを競いながら手を挙げていました。

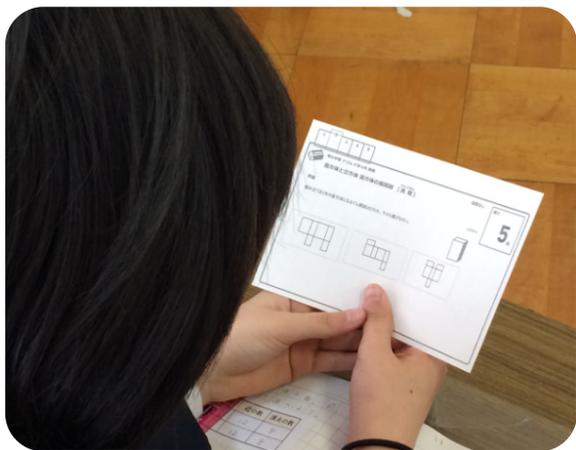
ドリルを提示して全員で確認することで、知識を共有し、一人一人の自信に繋げることができるそうです。



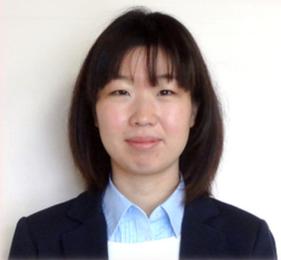
### ● ドリル問題を印刷して、手元で確認

授業時間内に終わらなかった問題は、子どもたちが自由時間に取り組めるように、ドリルの問題画面を印刷して配布しました。子どもたちはドリルをもらって、休み時間を使って意欲的に取り組んでいました。中には、わからなかった問題を後で確認できるようにと、ノートに貼り付けている子どもの姿も見られました。手元に問題を残せることで、子どもたちも安心するそうです。

全員で考えて共有したり、各自の手元で改めてじっくり考えたりと、場面に合わせて使い分ける、高田先生の工夫が光ります。



## 情報担当 高田 優香 先生のお話 ～子どもたちの自主性が高まった～



情報担当 高田 優香先生

授業の最後にドリルを提示すると、授業が終わった後も子どもたちは「続きの問題をやる！」と楽しそうに問題を解いています。特に算数の得意な発展コースの子どもたちは、難しい挑戦問題のドリルに興味を示し、子どもたちが自ら進んで学ぶ姿が見られるようになりました。

eライブラリはドリルの他にも解説教材やカード帳など、授業の導入やまとめ時に活用しています。今後も授業の目的やねらいに応じて効果的に活用していきたいと思っています。

## ● 確認問題で振り返ろう！

「コツコツコース」（基本コース）では**授業の導入に電子黒板で『確認問題』を提示**し、前時の内容を振り返りました。

子どもたちは電子黒板の前に集まり、これまで学習したことを思い出しながら、シールで隠れた内容を、手を挙げて順番に答えていました。

タッチして剥がれるシールに**子どもたちのワクワク感が高まります**。全員が顔を上げて画面に注目し、シールで隠れた言葉を導き出そうと熱心に取り組んでいました。



① 次の□にあてはまるのは何の数を書きましょう。

(1) 直方体で「隠された形や、直方体と立方体で隠れた形を□とします。また、正方形だけで隠れた形を□とします。

(2) 正方形のことも□とします。

(3) 直方体や立方体、面・辺・頂点の数は、右の表のようになっています。

|     | 面の数 | 辺の数 | 頂点の数 |
|-----|-----|-----|------|
| 直方体 | 6   | 12  | 8    |
| 立方体 | 6   | 12  | 8    |



## ● 基本問題を繰り返し、習得

授業の最後の10分はパソコン教室に移動し、今日の授業で習った内容のドリルに挑戦しました。

コツコツコースでは出題レベルを【**基本**】問題に指定し、基礎・基本をしっかり定着させるようにしています。「次へどんどん進むのではなく、**基本問題を何度も繰り返し行うことで、間違いを少しずつ減らしていくことが大事です**」と少人数授業担当の仲谷先生。

**教科書とは違った多くの問題に触れ、繰り返し行うことで、大事な要素が自然と身に付いていきます。**

## ● 解説教材の図版を印刷掲示

各教室にはeライブラリの解説教材の図版が数多く掲示されていました。解説教材の図版は、綺麗に大きく印刷できるため、**授業のねらいに合わせた内容を選んで掲示**しているそうです。

この日の授業でも、教室の掲示物に目をやり、要点を確認している子どもたちの姿が所々で見られました。

解説教材には単元のポイントがまとまっており、**図版が多く収録されているため、印刷や提示に取り入れることで板書の時間短縮にも繋がります。**

特に算数では既習内容を応用することが大事なので、前の単元の振り返りにとても適しているとのこと。



|     | 面の数 | 辺の数 | 頂点の数 |
|-----|-----|-----|------|
| 直方体 | 6   | 12  | 8    |
| 立方体 | 6   | 12  | 8    |

## 少人数算数担当 仲谷 正子 先生のお話 ～「わかったつもり」から「わかった」へ～



少人数クラス担当  
仲谷 正子 先生

大好きなPCでドリル学習ができることに、子どもたちは喜びを感じ、**学習意欲が高まっています。**

また、難易度も分かれているので、**勉強が得意な子は教科書にはない応用問題に多く触れることができ、苦手な子は基礎問題にじっくり取り組める**ので、子どもたちの**個に応じた学習**が実現できます。

授業を聞いて「わかったつもり」でも、実際に問題になると答えられないこともあるので、ドリルや確認問題を使った実践を通じて、**「わかった」と確信させ、子どもたちに自信をつけたい**と考えています。